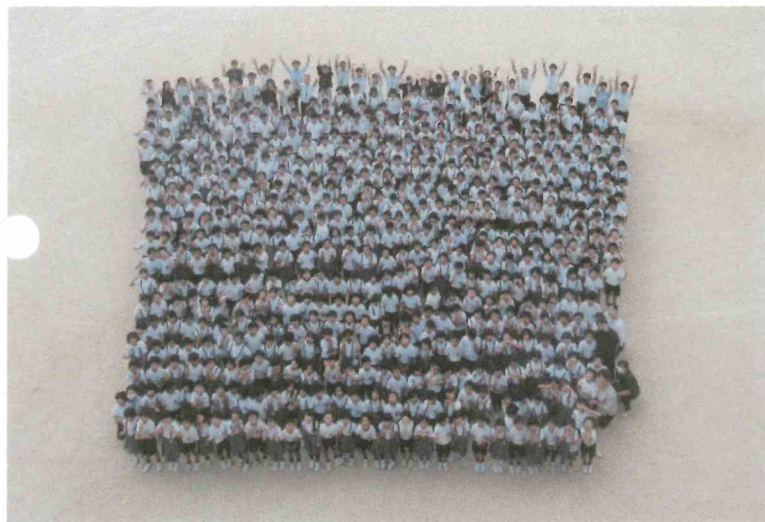


# 令和5年度 海田町立海田中学校区 第2回学校運営協議会



令和5年 10月18日(水) 9:00~10:00

海田町立海田東小学校 図書室

# 令和5年度 海田町立海田中学校区 第2回学校運営協議会議事内容等

## 1 議 事

第1号議案 各校「学校評価(中間)」について

第2号議案 海田中学校区ボランティアについて

第3号議案 学校参観等について

## 2 資料等

資料1 海田中学校区ボランティア内容

資料2 海田中学校区学校運営協議会 学校参観

資料3 小・中学校(メール)登録マニュアル

資料4 学校運営協議会委員名簿

## 3 その他

【第1号議案】

各校「学校評価(中間)」について

- 海田町立海田中学校
- 海田町立海田東小学校
- 海田町立海田南小学校

# 令和5年度 学校自己評価表 海田町立海田中学校

学校教育目標 「考え、実践する」～ 自律、尊重、挑戦 ～

道徳意識調査(5月)、学校生活アンケート(生徒・保護者・教員 7月)、保健のアンケート(6月)

中期経営 目標	評価項目	評価指標	評価基準				中間値	R4.12	評価	自己評価(中間)	
			A	B	C	D					
			目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない					
主体的・協働的で、 協働的で、考えを深め表現するため	◎主体的に学習意欲の向上 (自律・挑戦)	◇学校生活アンケート(生徒)で、「授業では、自分の考えを積極的に広げている」と肯定的に回答する生徒の割合(選択する力・表現する力) ◇学校生活アンケート(教員)で、「一人一人を尊重した授業をするための留意点」を授業の中で意識しています」と肯定的に回答する割合(選択する力・表現する力)	80%以上	70%以上	50%以上	50%未満	70.8%	全64.0 ①61.6 ②67.6 ③62.7	B	目標値の80%以上を達成するためには、生徒に目的意識を持たせて指導しなければならぬ。そのために、キャリア学習を通して、生徒が将来像や進路を希望する高等学校等を意識させる指導を継続するとともに、公開研究会で作成した掲示の中で、生徒が自分の考えを積極的に伝える場面の設定と発言に対する適切なフィードバックを徹底する。公開研究会後も、引き続き、生徒が安心して自分の考えを発信できるように指導を工夫していく。	
			90%以上	80%以上	50%以上	50%未満	92.9%	-	A		
			5冊以上	3・4冊	2・1冊	0冊	全2.8 ①4.2 ②3.5 ③1.0	65年度から 指導要領変更 前年(総数) ①382冊 ②446冊 ③356冊	C		SIRの図書室を利用できるようにしたり、生徒の関心のある図書を購入したりするなど、生徒が図書室を利用できる機会を提供している。また国語科では、ビブリオバトルの取組、図書委員会を中心に図書室利用を促進するような働きかけも続けており、継続して取り組んでいる。
			80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	(全国学力 調査)22 国+8.0 英-1.6	65年度から 3学年国・数 以外(全国 平均)を比べ 77.8%	B		
			80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全81.8 ①80.4 ②84.3 ③80.8	全79 ①76 ②74 ③89	A		
◎自己実現力・自己 効力感の向上 (尊重)	◎海田町を愛する生徒の育成 (尊重)	◇道徳意識調査で「自分にはよいところがあります」と肯定的に回答する生徒の割合(認識する力) ◇学校生活アンケートで「海田町に今後も住みたいと思う」と肯定的に回答する生徒の割合(選択する力)	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全80.2 ①83.3 ②76.0 ③81.5	全80.3 ①81.5 ②83.1 ③76.1	A	総合的な学習の時間における地域学習の成果として、肯定的回答が80%を超えており、多くの生徒は海田町に対して肯定的な思いを持っている。今までの取組を継続していき、またコロナ禍感染症も一定の落ち着きを呈しており、総合的な学習の時間の地域学習や道徳の場を愛する場面で、可能な範囲で実践を伴う学びを組織する上での工夫を行うことで、生徒の関心に対する思いを更に高めたい。	
◎規則正しい生活習慣 (自律)	◎体力の向上 (挑戦)	◇保健のアンケートで、適切で十分な睡眠時間(7～8時間程度)をとっている割合(判断される生徒の割合(選択する力)) ◇体力テストで、全国平均・県平均を上回る項目の割合	80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	全74.1 ①85.6 ②73.0 ③66.7	全73.5 ①83.8 ②69.5 ③65.3	B		
◎保護者・地域の学 校満足度の向上	◎教職員のやりがい (自律・尊重・挑戦)	◇学校生活アンケート(教員)で「私はこの学校に満足している」と肯定的に回答する教員の割合 ◇学校生活アンケート(教員)で「退任時刻1時間以内の日を毎月2回以上各自が設定し、守ることができた」と肯定的に回答する教員の割合	80%以上	70%以上	50%以上	50%未満	全体56% 男子 75% 女子 37.5%	男子 37.5% 女子 12.5%	C		
◎働き方改革の推進 (自律)	◎教職員のやりがい (自律・尊重・挑戦)	◇学校生活アンケート(教員)で「私はこの学校に満足している」と肯定的に回答する教員の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	94.1%	91.3%	A	昨年度最終の結果と比べても大きく増加し高評価をいただいている。学校行事が再開された学校行事が人数制限なくできるようになったことも良かったと考える。一方、保護者、生徒に寄り添ったために、教員が、時間外での家庭訪問、連絡、懇談会を行うことも多い、引き続き保護者に信頼を寄せたい。	
◎働き方改革の推進 (自律)	◎教職員のやりがい (自律・尊重・挑戦)	◇学校生活アンケート(教員)で「退任時刻1時間以内の日を毎月2回以上各自が設定し、守ることができた」と肯定的に回答する教員の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	82.8%	87.5%	B		
◎働き方改革の推進 (自律)	◎教職員のやりがい (自律・尊重・挑戦)	◇学校生活アンケート(教員)で「退任時刻1時間以内の日を毎月2回以上各自が設定し、守ることができた」と肯定的に回答する教員の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	70.0%	59.4%	C		

## 自己評価(中間) 結果と課題の分析・方策

目標値の80%以上を達成するためには、生徒に目的意識を持たせて指導しなければならぬ。そのために、キャリア学習を通して、生徒が将来像や進路を希望する高等学校等を意識させる指導を継続するとともに、公開研究会で作成した掲示の中で、生徒が自分の考えを積極的に伝える場面の設定と発言に対する適切なフィードバックを徹底する。公開研究会後も、引き続き、生徒が安心して自分の考えを発信できるように指導を工夫していく。

目標値を上回る中間値となっているが、あくまで教員の自己評価によるものであり、生徒一人一人を大切にしている授業づくりを継続していき必要があると考え、その中で、生徒が思いや疑問深めたりする場の設定を徹底するとともに、生徒の誰もが授業参加できるようにICTを活用した授業支援等も充実させていく。

SIRの図書室を利用できるようにしたり、生徒の関心のある図書を購入したりするなど、生徒が図書室を利用できる機会を提供している。また国語科では、ビブリオバトルの取組、図書委員会を中心に図書室利用を促進するような働きかけも続けており、継続して取り組んでいる。

教科の枠にとらわれず、「読むこと」を促進するために、読書タイムを継続して取り組んでいる。教科の特性も大切ではあるが、まずは「読むこと」にこだわり、各教科で工夫しながら指導をしていきたい。その中で、全国学力調査等でも出題される問いの特色を捉えて、日々の指導を充実させていくことが大切である。定期試験等でも出題されるような指導を反復させるような工夫をしていきたい。

昨年度との比較では、全体で約2ポイント上昇した。特に2学年については約8ポイント、3学年については約7ポイント上昇している。学級経営や道徳科の授業に加え、すべての教育活動の場面で、生徒を認め、励まし、伸ばすような指導を教職員全体で取り組んでいるからであると考え、今後も継続して自己肯定感を高めるような取組を進めていきたい。

総合的な学習の時間における地域学習の成果として、肯定的回答が80%を超えており、多くの生徒は海田町に対して肯定的な思いを持っている。今までの取組を継続していき、またコロナ禍感染症も一定の落ち着きを呈しており、総合的な学習の時間の地域学習や道徳の場を愛する場面で、可能な範囲で実践を伴う学びを組織する上での工夫を行うことで、生徒の関心に対する思いを更に高めたい。

昨年度との比較では、全体で約0.6ポイント上回っている。しかし、学年で見ると、2学年では約1.0ポイント、3学年では約2ポイントそれぞれ減らしている。結果には、コロナ禍による生活環境の変化があると考え、生活リズムやメンタルケアの充実を学期末三者懇談会での生徒の心身の健康の採択指導につなげるために、生徒及び保護者と共有している。また、日々の学校生活の中で、個別に声かけを通して、規則正しい生活リズムに繋げるよう、指導している。

昨年度と比べて男女ともに上昇した。しかし、女子の値は上昇してはいるが依然として低い値である。背景には、コロナ禍での運動不足、体を動かす場が減少していることが考えられる。今後の方策としては、部活動において課題を共有し、数値の低い項目について重点的に取り組んだり、授業において声かけに結びつけた補強運動を行ったりして目標を達成していきたい。

昨年度最終の結果と比べても大きく増加し高評価をいただいている。学校行事が再開された学校行事が人数制限なくできるようになったことも良かったと考える。一方、保護者、生徒に寄り添ったために、教員が、時間外での家庭訪問、連絡、懇談会を行うことも多い、引き続き保護者に信頼を寄せたい。

教員の欠員が生じたために負担をかけることがあった。その中でも82.8%の教職員が肯定的な回答をしていることは評価したい。改善すべきことを明らかにし、教員が尊重し挑戦できる環境を組織で考え改善していきたい。

閉庁時期を定めることで、計画を立て業務を行えるようにしている。部活動がない平日を中心に自主的に定時退校するようにしているが、校務体制により難しい状況であったことも含め、引き続き働き方改革を推進していく。

# 令和5年度 海田町立海田東小学校 学校評価自己評価表

学校教育目標 考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり (EAO)  
 ―「よく学ぶ」「よく遊ぶ」「やさしく強く」―

中期経営目標	短期経営目標	取組・評価項目	評価指標	評価基準				中間値	評価	1学期の反省	2学期の取組
				A	B	C	D				
自分の考えを深める子	・適切な学力を身に付けた児童の育成	・「海田町標準学力調査」(OR)の結果)	・「海田町標準学力調査」(全国平均正答率との比較(全国平均正答率以上の教科の割合))	75%以上	65%以上	60%以上	60%未満				
自分の考えを深める子	・授業で深く思考する児童の育成	・知識を活用し、協働して新たな価値を生み出す授業の実施	・児童アンケートにおける「友達と協力して学び合っている」「自分の意見を言うことの楽しさ」とは、合わせて「答えや考えをまとめている。」の児童の割合。	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	【学び合っている】 判定 80% 否定 20% 【自分の意見を言う】 判定 80% 否定 20%	A	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・行事等における「よい・丁寧な自己肯定感を高める取組	・児童アンケートにおける、「自分には良いところがある」と考えている児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【役割】 判定 80% 否定 20% 【自己肯定感】 判定 80% 否定 20%	A	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・あいさつ運動の実施	・児童アンケートにおける、「あいさつや挨拶をしている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【あいさつ】 判定 80% 否定 20% 【挨拶】 判定 80% 否定 20%	B	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・熱帯気候・汗着の指導の取組	・児童アンケートにおける、「熱帯気候・汗着を着ている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【熱帯気候・汗着】 判定 80% 否定 20%	A	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・基本的な生活習慣徹底のための指導の取組	・生活リズミカレンジャーでの「早寝ができた」の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【早寝】 判定 80% 否定 20%	B	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・外遊びの指導の取組	・児童アンケートにおける、「外遊びの指導を受けている」児童の割合。	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	【外遊び】 判定 80% 否定 20%	C	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	【命を守る】 判定 90% 否定 10% 【安全な行動】 判定 85% 否定 15%	A	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	【命を守る】 判定 85% 否定 15% 【安全な行動】 判定 75% 否定 25%	A	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。
自分や友達と力を合わせ、思いやりを深める子	・時や場に応じて適切な役割が着せられる児童の育成	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	・児童アンケートにおける、「自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている」児童の割合。	85%以上	75%以上	50%以上	50%未満	【命を守る】 判定 85% 否定 15% 【安全な行動】 判定 75% 否定 25%	C	・各学年における、1学期の取組が、2学期に引き継がれている。特に運動会では、他学年から6年生にかけて、全校児童の意欲や自己肯定感を高められている。自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合が増えている。また、運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。	・各学年の児童が、他学年の児童と協力して、学び合っている。特に運動会や行事活動を通じて、他者理解を深めることができた。今後も、児童の意欲や自己肯定感を高め、主体的に活動している児童の割合を増やしていきたい。

標準学力調査は、未実施のため、中間値・評価は最終報告の時に検証し記入する。

# 令和5年度 学校評価自己評価表 海田町立海田南小学校

## 学校教育目標 「考え 実践する 海田南っ子」

評価計画			評価基準				自己評価		
中期経営目標	評価項目	評価指標	A	B	C	D	中間値		
			目標達成	ほぼ達成	もう少し	できていない	中間値	評価	結果と課題の分析
確かな学力	授業改善	算数科・国語科単元テストにおける到達度80%以上の児童の割合	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満	75%	A	全体では75%と目標値を上回った。詳細としては、【算数科】知識・技能83.2%、思考判断表現59.5%【国語科】知識・技能80.2%、思考判断表現78.2%という結果だった。特に算数科の思考判断表現に課題がある。夏休み研修をもとに授業改善に取り組んでいく。
	ぐんぐんタイム・授業改善	「標準学力調査」全国平均正答率との比較。(全国平均正答率以上の教科(16教科)の割合)	87%以上	75%以上	62%以上	50%未満			12月の標準学力調査をもって結果とする。12月までのぐんぐんタイムの計画的実施について提案を基に各学年で実態に応じて確実に実施する。
	読書活動	児童一人当たりの平均貸出冊数(指定図書を含む)	60冊以上	55冊以上	50冊以上	50冊未満	33.5冊	B	児童一人当たりの貸し出し冊数は、33.5冊/人という結果だった。(9月19日現在) 児童一人当たりの貸し出し冊数は目標を達成していないが、委員会の児童を巻き込んだ本の貸し出しを伸ばす取組や教職員に呼びかける取組が必要である。
健康の保持増進	よく動く	1か月の学級全員が外遊びをしている平均回数	4回以上	3回	2回	1回以下	2.3回	C	○学級遊びやたてわり遊びによって、普段、外遊びをしない児童も外に出て体を動かしていた。 ●5月は運動会、6月は梅雨、7月は酷暑で全員での外遊びがあまり実施できないクラスが多かった。
健康の保持増進	よく食べる	給食の残菜量の割合	10%未満	10%以上～15%未満	15%以上～25%未満	25%以上	11.4%	B	○昨年度(12.7%)と比較して、残菜量が減った。 ○牛乳の廃棄が減った。 ●野菜の残菜量が多い。
健康の保持増進	よく眠る	早ね早起き朝ごはんキャンペーン中、自分が決めた目標の睡眠時間を守れた人数の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	83.1%	B	○キャンペーン中に、給食放送でのよびかけ、保健便り、みなみっ子げんきカレンダーといった取組により、児童の意識が高まった。 ○家庭からも取組に対する好意的な意見があった。 ●キャンペーン期間外の達成率が低い。
自律した心	挨拶	挨拶に対する児童アンケートにおける肯定的回答の割合	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	83%	B	○各学級や放送での呼びかけによって、「友達に対して」の肯定的回答86%、「先生に対して」の肯定的回答85%と4月から継続して80%以上の評価が得られている。 ●「ボランティアに対して」の肯定的評価79%、「お客さんに対して」の肯定的評価80%と上記2項目と比べると数値的に下回る。ボランティアとお客さんの項目に焦点を当てて指導していく必要がある。
	自己肯定感	自己肯定感に関する児童アンケートにおける肯定的回答の割合	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満	88%	A	「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答は88%だったが、「自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う」の肯定的回答は80%だった。指導者が、各教科及び道徳や学活等において、相互評価の場を意識して設定する必要がある。
信頼される学校	安心・安全な環境づくり	避難時における適切な行動に対する児童アンケートにおける肯定的回答の割合	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	92.7%	A	○避難訓練時における事前・事後指導の徹底が効果的だった。 ○ひろしまマイ・タイムラインの活用した防災学習を全学年で行い、防災意識がより一層高まった。 ●避難訓練が、年間の中で前半に集中しているため、後半に児童の防災意識が低くならないかが心配。
	積極的な情報発信	保護者アンケートにおける肯定的な割合	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満			今年度の学校経営計画に掲載された取組を中心に発信している。 学校だより発行月1回以上(8号まで) HP更新月4回以上(TOPページ35回、諸計画等) 町のアンケート結果を基に評価をする。
ずっと働きたい学校	定時退校	毎月4回以上、18時退校を守ることができた教職員の割合	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	83.7%	B	4月48.6%、5月97.1%、6月80%、7月97.2%、8月100%、9月は79.4%だった。事務作業が集中する4月は目標達成が難しかったが、それ以外はB以上は達成している。8月中にミニ研修を行い、再度定時退校について実践意欲を高める取組を行った。

## 資料 1

## 海田中学校区ボランティア内容

	月	学年	時間	活動	内容	人数	
	1	随時	全	20分	清掃活動 (道楽隊)	学校周辺の清掃活動 毎学期各学年で実施 3学年×3学期=9回実施	
	2	随時	全	30分	賞状等の名入れ	【求む】 大会等の賞状等に成績や名前を入れてくださる方。	2
海田南小学校	1	毎日	全	登下校時	交通安全ボランティア	毎朝、通学路の要所に立っていただき、児童が安全に登下校できるよう指導していただいている。	20
	2	毎月	4 ～ 6年	6時間 目	クラブ活動	グランドゴルフクラブに、毎回地域のボランティアに参加いただき指導していただいている。	7～8
	3	随時	4, 5年	1～ 5	ガイドツアー 史跡巡り	「西国街道ボランティア」の方や地域のお年寄り案内していただき、町内の史跡をめぐる。	5
	4	随時	3年	1～6	高齢者体験 車椅子体験 点字体験	地域のボランティア、点字ボランティア「六つ星」	10
	5	毎月	5 ～ 6年	6時間 目	委員会活動	栽培委員会の植栽活動に、地域のボランティアの方が参加して下さり、共に活動する。	2～3

東・南	1	6～	4年	適宜	ひまわりの栽培	海田の「ひまわりやさん」からひまわりやさんが大切にしているひまわりや、ひまわりの育て方を教えていただき、育てている。	4～5
	2	9	5・6年	1時間	陸上競技の指導	国際学院陸上部による指導	10人
海田東小学校	1	毎日	全	登下校時	交通安全ボランティア	毎朝、通学路の要所に立っていただき、児童が安全に登下校できるよう指導していただいている。	30
	2	1・2学期	3年	8時間	海田町ガイドツアー	海田町の名所めぐり	16~20
	3	9・10	4年	6時間	高齢者体験 車椅子体験 点字体験	社協 車椅子とことこクラブ じらくぼう	15~20
	4	10	1年	2時間	昔遊び	【予定】地域ボランティア	6
	5	4		1時間	畑の耕し	地域ボランティア	1
	6	学期に1回	全	6時間	おはなし会	読み聞かせ	15